

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2017年11月9日

No.4

**会社：現状は計画未達であり、夏季手当（より）も厳しい状況である。**

**組合：現状の会社の考え方には到底納得が出来ない！再考せよ！**

## 2017年度 年末手当第4回交渉報告～

中央本部は、本日第4回年末手当交渉を行い、年末手当に対する現時点の「会社の考え方」が明らかになりました。

- (1) 収入動向は10月現在までで、全体で対計画△5.3億円（95.5%）となっている。特積み貨物や自動車部品の輸送が好調となっているが、紙・パルプ輸送が大幅に減少し、北海道の農産物などは出荷調整の影響を受け、計画を大きく下回っている。また、年間累計でも対計画で△3.6億円と大きくショートしている。
- (2) 下期の営業として私有コンテナの空回送ロスを減らことや運賃値上げ、共同輸送の拡大などあらゆる収入拡大にむけて努力する。
- (3) 昨年度は鉄道事業部門の黒字を達成することが出来た。この間の交渉で組合からの主張は、会社としても受け止めている。しかし会社としては鉄道事業部門の黒字の継続と、収入確保にむけて努力をしなければならない。したがって現状では夏季手当（より）も厳しい状況と言わざるを得ない。

これに対して中央本部は、以下の点を主張しました。

- (1) この間の交渉で主張している、①会社に対する組合員の不満、②収入拡大のため百済臨貨などの対応していること③見切りをつけて若年退職が進んでいることを会社として受け止めているのならば現状の会社の考え方は到底納得が出来ない。
- (2) 組合員は日々努力を求められ結果も残している一方で、努力が報われないことに限界を感じている。これ以上組合員に何を求めようというのか。一方で会社に失望感を感じて若年退職する社員が止まらない。モチベーションを向上させるためには言葉や書面ではなく、具体的な形で示すこと。
- (3) 組合員は手当の低額回答や18年連続ベアゼロとなり、可処分所得は減少している。会社は「企業は人なり」というように企業の根本は人材である。組合員の奮闘に対して会社としての決断が求められている。
- (4) 貨物会社の将来を左右することを経営陣は改めて認識し、覚悟と決意をもって要求満額で応えること。コスト削減を年末手当に転嫁することは論外である！再考せよ。

中央本部の指摘に対して会社は、

- ①組合の主張を受け止めているが、下半期に入り収入未達が続いており楽観視は出来ない状況である。しかし何としても計画を達成させなくてはならない。
- ②現場では臨時列車の運転や要員不足を補っていただいていることは十分に理解している。しかし現時点では「厳しい状況」としか言えない。回答指定日まで議論を積み重ね回答する。

組合員のみなさん！私たちの努力を足蹴にし、計画未達を理由として経営陣は、「夏季手当（より）も厳しいと言わざるを得ない」と無責任な対応に終始しています。交渉経緯を踏まえ、これまでの苦勞に報いる回答を示さないと納得できません。会社が組合員に対して責任を果たす時です。

本日以降、山場の闘いに突入しました。11月13日は全国統一職場集会日です。この間、全組合員が一丸となって安全問題をはじめ欠員対策、増収施策、災害対応に汗を流してきました。このような状況下で組合員の努力を足蹴にする対応について怒りをぶつけるために、「全国統一職場集会日」には最大限の組合員が結集しよう。その声により理不尽な会社の姿勢をただし、この苦勞に報いさせるために“怒り”を会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

回答指定日は11月16日（木）です。